



## センター開設記念式典「三重の子育てを考える」

センター開設記念式典が「三重の子育てを考える～三重で生まれ、三重で育つ喜びを探る～」というテーマで、平成16年12月18日(土)高田短期大学の講堂において、県内各地から保育者や教育行政関係者および一般の方々約200名が参加し、盛大に行われました。

田口鉄久主任研究員の司会のもと、常磐井猷麿法主、村澤忠司学長より開設にあたってのお言葉をいただきました。

### 常磐井法主の祝辞

高田短期大学に育児文化研究センターが開設されたことを心からお慶び申し上げます。今日、子育ての問題は大きな社会問題となっています。両親が子育てに大変疲れておられること多々聞きますし、また、子どもたちを巻き込んだ犯罪も増加している時期に高田短期大学がいち早く育児文化研究センターをスタートされたことを大変うれしく思います。どうぞ、地域の方から親しまれ、信頼される育児文化研究センターに発展することを願っています。

### 第1部 「子どもと若者による発表」

高田幼稚園児

- ・合奏『美女と野獣～愛の芽生え～』（赤組のみなさん）
- ・和太鼓『会津磐梯山』（白組のみなさん）



高田短期大学幼児教育学科学生  
音楽劇『赤ずきんちゃんのおばあさん』



高田中・高等学校生徒  
琴演奏

- ・となりのトトロから『さんぽ』『風の通り道』
- ・千と千尋の神かくしから『いつも何度でも』



### <プログラム>

開式  
法主祝辞 学長挨拶

#### 第1部 13:05～14:20

(1) アトラクション「子どもと若者による発表」  
和太鼓と合奏（高田幼稚園児）

- ・合奏『美女と野獣～愛の芽生え～』（赤組の皆さん）
- ・和太鼓『会津磐梯山』（白組の皆さん）

(2) 音楽劇（高田短期大学幼児教育学科1年生）  
『赤ずきんちゃんのおばあさん』

- ・となりのトトロから『さんぽ』『風の通り道』
- ・千と千尋の神かくしから『いつも何度でも』

#### 第2部 14:30～16:00

シンポジウム「三重の子育てを考える」

<シンポジスト>

三重大学名誉教授・医学博士 櫻井 實 様  
四日市大学総合政策学部教授 谷岡 経津子 様  
三重県国公立幼稚園長会会長 太田 和子 様

<司会>

高田短期大学育児文化センター長・教授

豊田 和子

## 第2部「シンポジウム」

「三重の子育てを考える」をテーマとして、高田短期大学育児文化研究センター長豊田和子の司会で、3人のシンポジストから、それぞれ提言・意見交換がなされました。



三重大学名誉教授  
医学博士 櫻井 實 氏

### 「子どもの感性を育む ～小児科医の立場から～」(要旨)

プレゼンテーションを用いて、脳の発達順序(胎生から2歳まで、3～4歳まで、5歳以降)を解説し、人間の感性は子どもの脳の発達に適合した育児環境に強い影響を受けて育まれることについて話された。感性とはなにか?子どもの脳はあらゆる才能や生存の可能性を秘めているが、生まれたときは殆ど白紙に近い。人間の感性は子どもの脳の発達に適合した育児環境に強い影響を受けて育まれる。人間やあらゆる生物は外界からの刺激や情報をあらゆる感覚受容器を通して脳が受ける。人間の脳は他の動物に比較して、大脳、とくに前頭部の発達が著しい。前頭葉は人格としての感情、情緒、思考・思惟、行動の決定、人格形成に関わる脳の高次機能の中心をなしている。大脳は人間がより適性に生存・

行動できるために、情報の本質や恒常性を求めて止まない。それが、感性というべきものであろう。感性を育むためのポイントは、両親が「テレビを見すぎること」の弊害を理解し、「母親」「家族」が育児を通して、子どもと一緒に感性を磨く「習慣」をつける。社会・保育機関の子育て支援と啓蒙、親と一緒に絵本を読む。創造的遊びが大切である。

### 「生涯学習社会における子育て論」(要旨)

生涯学習支援のためには、これまでの学校中心の考え方を改め生涯学習の考え方から学校教育を改善していくとともに、家庭、学校、社会の様々な教育機能を相互の関連を考慮しつつ、総合的に整備充実していくことが必要である。長寿社会において賢い生き方(「自己の向上、生き甲斐」「一生現役」「人生は7掛け、年齢も7掛け、今に生きるコツ」)や高齢者の知恵を生かした学びの子育てコミュニティづくりについて解説した。子どもたちに今必要なのは、五感重視の実体験の場であり、そのためには、参加者の主体的な「気づき」が必要。「学びのコミュニティづくり」をするための地域づくり推進の視点と手法について具体的にどのような取り組みが必要なのかについて提言された。また、NPO、ボランティアを重視していくこと、人材教育システムの構築が必要であると話された。



四日市大学総合政策学部教授  
谷岡 経津子 氏

### 「三重の子育てを考える ～乳幼児保育現場の立場から～」(要旨)

自信の持てない子どもたち、「だって」の多い子どもたち、ストップのきかない子どもたちの様子とその対応について事例を挙げながら解説した。理想の子どもとして「良い」を求め、プレッシャーの大きな保護者の姿が見られる。「ありのままでもいい、解消するポケットをたくさん持ったら」と助言している。保育現場での「不安がいっぱい」「私だけがどうして?」という姿から親子共育で支援の重要性を痛感する。

「アイメッセージで心を伝えよう」(うれしい・悲しい・楽しい・寂しい・ありがとう等)「あこがれの存在が意欲に」(身近な家庭の中に、幼稚園の年長に、小・中・高等学校の子どもたちに、地域のなかで活躍している人々に)「体験を通して身につけよう」(かえがけのない命の大切さを、豊かな感性を、失敗を繰り返さない力を)の3つのメッセージを贈りたいと述べられた。



三重県国公立幼稚園長会会長  
太田 和子 氏



## センター開設記念行事「秋の一日 馬とふれあおう！」

平成16年11月23日(火・祭日) 晴れ上がった秋日和の中、短大馬場において、津市や近郊市町村より170人ほどの家族連れが参加し、秋の一日を楽しくすごしました。いろいろな楽しいコーナーがあり、高校馬術部、高田短期大学の学生ボランティアが大活躍。



馬術部による演技



馬車に乗ってお散歩



ポニーやうさぎと遊ぼう



ロディに乗って遊ぼう



親子でウマイ、おにぎりづくり

### 平成16年度事業

- |                                     |              |                  |
|-------------------------------------|--------------|------------------|
| (1) 馬とふれあう課外活動                      | 11月23日(火・祭日) | (於)高田短期大学        |
| (2) センター開設記念式典                      | 12月18日(土)    | (於)高田短期大学        |
| (3) 定例研究会 第1回                       | 1月18日(火)     | 以後毎月実施 (於)高田短期大学 |
| (4) 出前講座の講師派遣、研修会等の助言指導者派遣          | 1月~3月        | (於)県内各地 (5頁参照)   |
| (5) 「育児文化研究センターだより IKUBUN NEWS」(会報) | 創刊号発行        | 2月               |

### 平成17年度事業

以下のことを予定しています。詳細は追ってご連絡します。

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| (1) センター総会                  | ( 5月 )   |
| (2) 出前講座・講習会等への講師・助言指導者派遣   | ( 年間を通じて )   |
| (3) 保育者・教師等を対象にしたリカレント講習会   | ( 年2回程度 )  |
| (4) 親子支援のための大学施設開放と育児相談     | ( 年6回程度 )  |
| (5) 馬とふれあう課外活動              | ( 年1回 )  |
| (6) 親子のためのメディアリテラシーの講習会     | ( 年2~3回 )  |
| (7) 幼児向け「食」指導の講習会           | ( 年1~2回 )  |
| (8) 定例研究会                   | ( 毎月1回 )   |
| (9) 「育児文化研究センターだより」刊行       | ( 年間2~3号 )   |
| (10) 「育児文化研究センター研究紀要」創刊号の発行 |  |
| (11) その他                    | ・学童保育指導員を対象にした研修会<br>・保育園勤務の看護師を対象にした研修会<br>・子育て電話相談 等 |

## 出前講座のご案内

研究員が幼稚園や保育園、各種団体の研修の援助をします。平成17年1月～3月までの予定は以下の通りです。申し込み・詳細は、センターまでお問い合わせください。

No.	講座内容(テーマ)	(内 容)	(対 象)	氏 名	担当時期	担当地域
1	幼い子どもの発達と大人のかかわり	乳幼児の心の発達と、それに見合った大人のかかわり方について学習します。	家庭教育教室、子育て支援団体	豊田和子	2月	北勢・中勢・南勢(県内全域)
2	子どもの見方と保育者の援助について	遊びの中で、あるいは生活場面での一人ひとりの子どものとらえ方と、見通しのある保育者の援助について学習します。	幼稚園、保育園の職員			
3	障害児保育について	各種障害の理解、発達段階に応じた保育 等	保育関係者、保護者	千草篤磨	土曜・日曜・祝日	北勢・中勢・南勢
4	仏教の根本理念と保育	あらゆるいのちの平等を知り、お互いに慈しみ悲しみ合っていかなければならないということの根拠を考え、保育の根本精神は「縁起」にあることを伝えたい。	保育関係者、保護者	栗原廣海	水曜日(都合悪い日有り)火曜・木曜の午後(あまり遠くない場所)	北勢・中勢・南勢
5	保育と観察(かんざつ)	人間のものの見方、考え方の問題点を明らかにし、子どもを見る目について考えたい。	保育者、保護者			
6	拝むということと祈るということ	「ののさま」に子どもと共に手を合わせ拝むことの意味を、「お祈り」と比較して考えたい。	保育者、保護者			
7	保育実践研究	保育内容、保育指導(援助)のあり方検討		田口鉄久	学生の授業のない期間	県内
8	手作り玩具を作ろう(上級編)	身近にある素材を使って、手作りのおもちゃを作ります。EX(ブンブンごま、フリクションドラマ、竹トンボ、etc)	小学校中学年～高学年及び低学年の親子	采翠真澄	日によるので、その都度相談をお願いします。	中勢
9	手作り玩具を作ろう(初級編)	牛乳パックや紙コップなど、身の回りにある素材を使って幼児向けのおもちゃを作ります。	幼児及びその親子			
10	幼児のための造形教室	幼児が楽しく造形活動に取り組めるような題材を用意します。もの作りを通しての子どもの成長を援助します。	幼児			
11	知的障害(児)者とその家族への相談援助	障害者の福祉サービスにかかる保護の実施主体が市町村に移されたが、当事者の思いや願いに向かい合う相談支援の体制づくりの課題の達成は急務である。相談支援の職員を養成することも又大事な課題である。	市町村障害福祉関係職員、民生委員、児童委員など	植木 存	1～3月(土日)時間は求めに応じて	中勢、南勢
12	子育て不安の社会化と子育て支援の社会化	子育て不安の社会的広がりを通して現代の家族問題を社会問題の視点から解明するとともに子どもの背後にある親の生活の全体性を理解しながら子どもの最善の利益について考える。	市町村保育担当者、保育所関係者、民生委員、児童委員など			
13	家庭の日常生活に於ける子育て	幼児をとりまく環境とその問題点を踏まえ、今、求められている子育てについて	乳幼児をもつ母親、父親	池上綾子	水曜日が木曜日	中勢を中心に
14	集団生活としての幼児教育・その具体的実践	幼児をとりまく環境とその問題点を踏まえ、今、求められている保育園・幼稚園における教育について	保育者全般			
15	子どもと共に創り上げる保育	今の子どもたちには躍動感あふれる体験が必要、ドキドキワクワク、おもしろさを追求した保育実践	幼稚園教諭、保育士	岩附啓子	要相談	要相談
16	私の出会った絵本	絵本の読み聞かせの後、子どもたちのイメージをふくらませながら遊びへと発展させていった保育実践	幼稚園教諭、保育士			
17	英語コミュニケーションの基礎	歌やチャンツを通して、英語のリズムに慣れる。ゲームとジェスチャーで英語コミュニケーションを図る。1行～3行会話でコミュニケーション。	小・中学生	大蔵香代子	水曜午後、金曜終日	北勢、中勢、南勢
18	幼児教育ゼミナール	「わが子自慢は親の常」そんな親にどう対応するか。子どもの目線をどうみつけるか。	幼児教育に携わる者及び志す者	浜辺恒男	随時	県下どこでも
19	子育てアラカルト	「這えば立て 立てば歩めの親心 わが身につる老いも忘れて」の姿が子育てには肝要。	幼・小・中生を持つ親及び祖父母			
20	親と子のプロムナード	「親の意見と茄子の花は…」は、もはや死語。親の教育が必要。講話後教育相談も。	中・高生及びその親			
21	「造形あそび」をみんなで楽しもう	絵画(描画)造形を身体をつかいながら幼児一人一人の個性を發揮させ、天真爛漫な素材の独創的豊かな創作活動を目的としている。	保育園、幼稚園(2才から) 入園前の幼児も可能(2歳児から)	田中厚好	春(3月～5月)、秋(10月～11月後半) 夏、冬でも、それぞれの四季にあった造形あそび造形指導があります。祝日、土、日の場合は、指導者向け可能。	北勢、中勢、南勢地区可能ですが、なるべく北勢、中勢地区でお願いしたいと思います。
22	「造形あそび」による指導者向けの造形描画指導法	「造形あそび」を指導者側が実際に体験しながら、独創的な描画造形を創作した喜び感動を味わい、本来の意図とする創造的想像力の育成、造形教育とは全教育の基盤にもつながるとの意味を認識してもらおう。	保育園・幼稚園・養護施設の保育士、幼稚園教諭			
23	保育時間での描画、造形指導とは...	だれもが楽しめる描画、造形技法また指導、メニューの一部を体験しアートの表現の多様性、可能性に触れることで創造的な能力がひろまり、今まで気づけなかったオモンロサを示してくれるような実感できるような授業をと考えている。	保育園、幼稚園、2才からを考えている(保育士、幼稚園教諭と一緒に)			

## 第1回 定例研究会開催



平成17年1月18日(火) センター第1回定例研究会が開催されました。レポーター豊田和子研究員より、「育児文化研究センターにかかる研究の視座」のテーマで、(1)少子化問題をどう読み解くか、(2)子育て支援の進め方の視座、(3)次世代育成支援の考え方、(4)幼保の総合施設の問題の4点について研究報告がありました。出席者は20名でした。次回は、2月15日(火) 田口鉄久研究員(テーマ: ごっこ遊びの魅力と援助について)、3月15日(火) 武川眞固研究員(テーマ: 子どもの人

権から見た児童虐待) でいずれも16:30より17:30まで、高田短期大学1号館第4会議室に於いて開催します。

## センターの組織

センター長	豊田和子 ( 幼児教育学科 教授 )
主任研究員	田口鉄久 ( 幼児教育学科 助教授 )
研究員	石井啓子、植木存、梶美保、栗原廣海、駒田聡子、榊原尉津子、田口鉄久、武川眞固、千草篤磨、豊田和子、福西朋子、三宅啓子、山本敦子、わけびき真澄、鷺尾敦 (以上、本学専任教員)
客員研究員	池上綾子、糸川京子、今吉未宝、岩附啓子、大蔵香代子、川村きみ子、北端一子、鈴木照美、田中厚好、豊田ひさき、中瀬啓之助、朴恵淑、浜辺恒男
顧問	櫻井實( 三重大学名誉教授、医学博士 ) 谷岡経津子( 四日市大学総合政策学部教授 ) 太田和子( 三重県国公立幼稚園長会会長、四日市市立富田幼稚園長 )

## センターへのお問い合わせ

高田短期大学育児文化研究センター

住 所 514-0115 三重県津市一身田豊野195  
電 話・FAX 059(232)2310 高田短期大学 内線123番  
メールアドレス ikubun@takada-jc.ac.jp

## センターへのアクセス

センターの情報や活動がより身近なものとなるよう、工夫して、楽しい紙面づくりをしたいと思います。素人がしておりますので下手さはご勘弁を。皆様の活動の情報・ご意見・ご感想をお待ちしております(M・K)

編集後記



公共交通機関の場合：

JR一身田駅より徒歩約15分  
近鉄高田本山駅より自転車約20分  
津駅東口より、「棕本」「豊里ネオポリス」「高田高校」行きに乗車、高田高校前で下車徒歩約10分  
津駅東口より「三重病院」行きに乗車、一身田高田本山前で下車徒歩約15分